

五たか体協だより

題字 安田養次郎三鷹市長

発行 三鷹市体育協会 会長 吉野 惣一郎 編集 広報部

〒181-0014 東京都三鷹市野崎1-1-1 TEL 0422(43)2500

2002年9月 復刊 第2号

十四年度体協評議員会 活発な意見

平成十四年四月二十五日年に一度の評議員会が開催されました。評議員の構成は各連盟から二名ずつ、任期二年で選出されています。現在の連盟は、三十一ありますので六十二名の評議員となります。この評議員が次の議事を審議し活発な意見を述べ決定しました。

- 一、十三年度の事業報告承認
- 二、十三年度決算及び会計監査報告承認
- 三、十四年度事業計画の審議
- 四、十四年度予算審議
- 五、三鷹市グラウンドゴルフ連盟の三鷹市体育協会への加盟

十四年度事業計画の あらまし

体育協会では、行政機関や体育関係の諸団体と総合連携のもと、三鷹市の体育やスポーツ・レクリエーション活動を奨励して、市民が自主的にその適性や健康状態に応じて、スポーツに親しむことができる「市民スポーツ」を推進しています。また、自らの健康・体力にに応じてその増進を図り、心身の健全な発達と明るく豊かな市民生活をつくるために「スポーツを生活の中に」を目標とした生涯スポーツを継続して推進しています。

具体的な事業は次のとおりです。

- 一、市民体育・スポーツに関する事業
 - 1 加盟団体の年間行事の推進
 - 2 第五十二回市民体育祭スポーツ大会の実施
 - 3 第十一回市民駅伝大会の実施
 - 4 種目別少年スポーツ大会の実施
 - 5 歩行力測定会、体力測定会の実施
- 二、体育・スポーツ振興に関する事業
 - 1 スポーツ指導員養成講習会・研修会の実施
 - 2 スポーツ教室、初心者講習会等の実施
 - 3 スポーツ教室等への講師、管理者の派遣
 - 4 スポーツ少年団等青少年層への積極的な育成、指導
 - 5 障害者（児）運動会等関連団体体諸行事への協力
- 三、派遣に関する業務
 - 1 第三十六回東京都町村総合体育大会への選手派遣
 - 2 第五十五回都民体育大会（夏季・冬季大会は第五十六回）
 - 3 十四年度都民生涯スポーツ大会への選手派遣
 - 4 十四年度スポレクふれあい大会への選手派遣
- 四、スポーツ交流に関する事業
 - 1 矢吹町とのスポーツ交流

- 2 伊豆の親睦ボウリング大会
- 五、組織・運営に関する事業
 - 1 体育協会法人化への他団体の状況把握
 - 2 上部団体、行政委員会への役員派遣

3 現在の部会は、総務部、企画部、指導部、広報部、会計部の五部です。この部会が総合連携をとりながら夫々の課題に取り組んでおります。

十四年度予算のあらまし

予 算			
収 入		支 出	
事 項	金 額	事 項	金 額
会 費	860,000	運 営 費	390,000
補 助 金	20,658,340	事 業 費	9,216,500
事業収益金	800,000	労 務 費	12,896,640
受託事業収入	1,900,000	事 務 費	290,000
寄 付 金	10,000	収益事業費	80,000
雑 収 入	20,000	受託事業費	1,650,000
繰 越 金	818,097	法人化積立金	50,000
		交 際 費	100,000
		分 担 金	195,000
		予 備 費	198,297
会 計	25,066,437	合 計	25,066,437

三十七回（平成十五年）都市町村

総合体育大会方針決まる

都市町村総合体育大会は、平成十二年度から市単独の開催から六ブロックに分けたブロック制開催となっております。来年度は、第四ブロックが担当となり、武蔵野、三鷹、府中、調布、小金井、国分寺、狛江の七市となっております。第四ブロックの中で事務局は三鷹市と決まりました。八月八日

都市町村総合体育大会は、平成十二年度から市単独の開催から六ブロックに分けたブロック制開催となっております。来年度は、第四ブロックが担当となり、武蔵野、三鷹、府中、調布、小金井、国分寺、狛江の七市となっております。第四ブロックの中で事務局は三鷹市と決まりました。八月八日

開催日程は、まだ明確に決まっておりませんが、平成十五年七月二十七日を中心として開催される予定です。理事の皆様のご協力により大会成功にもっていきたいものです。

連盟紹介

野球連盟の歩みと活動状況

三鷹市野球連盟

市内の野球愛好者は昭和二十七年まで「武蔵野支部」に加盟し、活動してきましたが、昭和二十八年三月に行政サイドのご指導と援助を頂き文字通り市を挙げての努力が実を結び「三鷹支部」が結成され、十九チームが参加、東大三鷹寮、三鷹中学（現一中）のグラウンド二面で記念大会を開催、富士重工業Aチームが記念すべき優勝を飾っています。加盟チームも昭和五十年六十チーム、平成五年には一三〇チームに増加、平成八年に壮年チーム十チームも新しく参加され、現在一二〇チームにてトーナメント方式で行っております。来年は創立五十周年を迎えることになりました。先輩の方々が造り上げた組織を守り、時代の変化に対応した運営を心掛けていきます。

活動状況は年間春・夏・秋の三大会を実施し秋季大会は市民体育大会を兼ねて行っており、各大会は都大会・市町村大会の予選として行っております。クラス編成は一部、四部と壮年の部に分れ技を競っています。次世代をになう学童少年野球連盟の運営面を見守りつつ、審判員の派遣等を行い、当連盟と連携を深めています。又、五十二回を迎える「三鷹警

察署」・「三鷹防犯協会」主催による「防犯大会」も主管として後援しております。

軟式野球の普及発展と市民の健康づくりのため、野球を通じて市民の親睦を計り、教育委員会・スポーツ振興課等のご指導を願いつつ体育協会の発展に協力してゆく所存であります。

五十周年を来年に控えて

三鷹卓球連盟

三鷹卓球連盟は昭和二十八年に結成されました。初代会長は中津川春吉氏、今も健在で連盟の発展に長年寄与された吉沼庫雄氏が理事長でした。当時は大会が開ける体育館がなく、市役所や市内企業に散在する卓球台を、会場となる横河電機の食堂やプリンスの工場まで大八車で前夜に運んで設営したとのことで、先達のご苦労に頭が下がる思いです。

現在は十五クラブ、二四八名（平成十二年）の所帯を二十七名で構成する役員で運営しています。事業は市民スポーツ大会をふくむ市民・会員対象の大会を五回、オープン大会を四回開催、平成十三年の参加者数は延べ一八八六名でした。その他に都民大会、市町村大会への参加、市民対象の卓球教室の開催、合宿、不定期ですが矢吹町との交流を行っています。来年は五十周年を迎えます。現

在実行委員会を設置して準備にはいっていますが、半世紀にわたって卓球連盟を支えて下さった方々に感謝の気持ちを捧げると同時に、三鷹の卓球の更なる発展に向かって、中学生等の若い世代への普及を図って、有意義な五十周年にしたいと考えます。

スタッフ代る

三鷹市バレーボール連盟

バレーボール連盟は創立して四十八年を迎えました。その四十八年の歴史の中で、都民大会や市町村大会での優勝等、数々の大会で優秀な実績を残してまいりました。

現在は男子八チーム、女子三チーム、合計十一チームが連盟に所属しております。前期、後期の六人制、九人制の試合のほか、市民大会の運営を行っておりますが、近年はチーム数が減少し、女子の大会はほとんど開かれていない状況にあります。五十周年を前に迎え、私達は新しいチーム、特に女子チームの連盟加入を目標にいろいろな方面に声をかけ、また新チームが連盟に入りやすいような体制づくりをしております。最後になりましたが、今年度は会長、理事長以下スタッフも代わり、若い人たちが増えた新体制になりました。諸先輩方の経験、知恵と加盟チームの皆様のお借

りしてさらなるバレーボール連盟の発展を目指しております。

楽しい魚釣りを

三鷹市釣魚連盟

歴史は古く昭和二十九年に戦時中使用出来ずに保管していた愛竿を携え、個々に魚釣りを楽しんで来た方々が数人で釣行するようになり、三鷹市に釣友会が誕生し活動を始めました。

当時数少ないスポーツの種目として急激な広がりを見たので、三十一年市全体を一体化した組織と七企業と五クラブによって「三鷹釣魚団体連合会」が発足。団体戦を主とした各種大会が盛大に行われました。

しかし年月を経る内に社会情勢の変化で団体の数が減少したので、五十五年「三鷹市釣魚連盟」と改称、地域に根ざした市民スポーツ活動の一環として進めるため、団体戦を廃止。個人会員制を取り入れ今日に至っております。市内に施設は無く殆どが他県でバス利用の活動のため、市民の目に見えない弱さを抱えています。が、海、川の四季の魚を求めて年十回の大会と五回の集いを愛好者が競技より楽しい釣りと、市民相互の親睦、釣技の向上を目的として活動しています。あなたも自然の中で糸を垂れ太公望の心境を味わってよ如何ですか。

来年は50周年

三鷹市ソフトテニス連盟

当連盟の創立は、体育協会の結成より四年前の昭和二十八年であります。来年は創立五十周年を迎えます。半世紀に亘る連盟活動の纏めとして現在、記念行事の準備をすすめています。百年以上の歴史をもつソフトテニス（前は軟式庭球と称していた）は日本独自のスポーツとして全国的に普及してきました。その愛好者は二百万人とも言われています。三鷹市では昭和五十年頃、三鷹方式の推進と共に飛躍的にソフトテニスが盛んになりました。特に家庭婦人の台頭が著しく、市民大会の女子の部では二百組を超える参加者がありました。しかしその時期をピークにテニス愛好者が減少傾向にあります。現在連盟会員は一三八名であります。（他に中学生二〇〇名）当連盟の年間行事は、市内大会が六回、外部派遣大会が七回、対外親睦交流会が一回、市民講習会が二回、中学生大会が二回、中学生講習会が二回の、月平均一・八回の行事を消化しています。当面、連盟が最も重点としている目標は、伝統あるソフトテニスに、多くの市民の皆様が参加して下さる事と、低学年層の育成であります。その実現に連盟役員一同は日々努力しているとところでございます。以上、本「みたか体協だ

より」の紙面をお借りして、三鷹市ソフトテニス連盟の動向を紹介いたしました。

山は楽しい

三鷹市山岳連合会は昭和三十年の市民の山岳遭難を契機として昭和三十一年に遭難防止対策のために結成され、奥多摩を中心として活動を続けてきました。

現在、三鷹市山岳連合会は事業所ごとの山岳部（日本無線、富士重工、三鷹市役所の三団体）それと三鷹市民を中心とした三鷹山岳会により構成され、加盟団体間の交流、年一回の市民ハイクの実施及び姉妹都市である福島県矢吹町との交流を行っています。

三鷹市では住宅地化により事業所の移転など事業所ごとの団体加盟が難しい状態になりつつあります。今日、空前の登山ブームで山に登られる方々も多く、また登山グループも多いのではと思われま

待ちしております。

弓道連盟の現状について

三鷹市弓道連盟

三鷹市弓道連盟は、昭和三十二年四月に結成されましたが、中断の後昭和五十三年十一月に活動を再開して現在に至っております。平成十四年度の会員数は五サークル六十名（男女各三十名）となっており、弓道は年をとっても続けられるスポーツです。現在八十歳以上が五名おります。

各サークルの練習日は、夜間が金・土・日曜日、午前が水・金曜日、午後は弓道連盟の練習日です。月一回競技会を行っています。外部の各種競技会での昨年度の成績は、東京都町村総合体育大会および都民生涯スポーツ大会のいずれも六位でした。

弓道人口の増加を目指して、初心者教室を年一回五月上旬から七週に亘って開催しております。会員の半数は教室の修了者です。弓道の競技会・演武では五人立ちが基準です。現在の三人立ちの狭い道場では五人揃っての体配・演武等が出来ませんので、年一回広い道場を借りて合宿を行い、研修と会員相互の交流を図っております。三鷹市の道場でも正規の稽古が行える様に、総合体育館の早期着工を切に待ち望んでおります。

三鷹市剣道連盟について

三鷹市剣道連盟

三鷹市体育協会の「みたか体協だより」が再刊されたこと、真に喜ばしい限りです。体育協会の発展に寄与するものと存じます。さて、三鷹市剣道連盟についてわずかではございますが紹介をさせていただきます。

当連盟は、昭和三十二年に結成されまもなく創立五十周年をむかえます。現在加盟団体は十三を数え、会員数も体協登録三〇〇名となっており、しかしながら少子化によるものなのか、暫減傾向にあることは残念でございます。当連盟の中心事業は、月例の合同稽古会と併せて市民体育祭剣道大会をはじめとした市内で開催の四大会をはじめ、対外各種大会等への選手の派遣や審判員講習会等であり、特に青少年の健全育成には特段の力を傾注しているところでございます。

地域社会での剣道は何を意味するのか。といえば、相手に対する礼節・己の礼の習得・相手を尊重する心、また日常生活で育ちにくい忍耐力・苦しさで勝つ力・敏捷性、自分より大きいものを制する力等であり、また、剣道は個人競技のため脳と精神の発育、活性に好ましい影響があるとされ、一人対一人の対決は全ての力を一

点に集中させないと相手を制することができないため、集中力、判断力等が育つとされています。人の生き方が様々な今日、価値観の多様化した社会のなかで大切なものを尊重しながら、三鷹市剣道連盟の目的に沿い、心身の鍛錬と青少年の健全育成を計り、剣道の普及発展に会員一同努力してまいります。

輝く星に

三鷹市バドミントン協会

協会はいつも「輝いて」ほしい。そして照らしたされたステージで誰もが楽しくプレイをする。

いま、協会は輝く力を得た。新会員加入法による新鮮力、大会の個性化などに新しい楽しみ方を演出する。初心者にも上級者にも満足度一二〇%を目指す企画力は、個性集団の賜物だ。

また、下打合せはメール交換で本理事会への議題充実化を計っている。何より競技、指導、総務の柱が充実し今後の期待が大きい。昭和三十三年創立。当時は室内でバドミントンができる公共施設がなく武蔵野第二小学校で結成大会を行った。当初からの団体（日本無線、富士重工、市役所）はい



までも本協会の基盤をなしている。また、結成時のメンバーであった現五味宏顧問の長期に亘る業績や献身的な参画は誰もが認めている。

会員への情報源として

隔月に機関誌を発行

三鷹市水泳連盟

三鷹市水泳連盟は、昭和三十三年に当時の市内の企業の水泳部が中心となり結成された小さな団体でした。市民大会の主管のほかに企業間の対抗試合をする程度の活動で、体協傘下の団体の中ではワースト3に入るとまで言われた時期がありました。

これが昭和四十八年に屋内プールが出来てからは大きく変わりました。すなわち、会員層が企業の水泳部員から一般市民へと、また競技指向のみの水泳から健康のための水泳をも取り入れた社会体育スポーツへと変わったのです。屋内プールが出来ると同時に現在活動している自主クラブが次々と誕生しました。この自主クラブの誕生には、当時市教委が生涯水泳のための自主クラブの育成に力を注がれ、これが原動力となり大

きな組織・態勢を作り出すことが出来たのです。

現在、連盟の組織は企業の同好会一、自主クラブ五及び個人会員で構成される正会員五一五名、小学生からなるジュニア部と五十歳以上の中高齢者からなるGシニア部で構成される準会員三五四名、正準会員を合わせると八七九名の大世帯です。

会員への情報源として隔月に機関誌「三水連だより」を発行しており、現在百三十号に達しました。

矢吹町と交流も

三鷹市バスケットボール連盟バスケットボール連盟は、二年前に新役員体制になり、バスケットボールの底辺拡大を目標にかかげ、心機一転連盟の活性化に向けて努力を始めたところでした。

連盟の事業内容は、市民大会「一般男女（高校以上）・中学生男女・小学生男女」です。

一般男子の部では、三鷹市選抜チームで都民大会にのぞみまし。また、家庭婦人チームで生涯スポーツ大会に参加していきま

す。中学・高校を中心にバスケットボール教室を市内の日本無線バスケットボール部（全日本実業団バスケットボール大会優勝）の全面協力を得て実施しました。

小学校（ミニバスケットボ

ル）については、今年より市民大会とは別に八月に経験交流大会を新たに実施することにしました。また、男女共に選抜チームをつくり、福島県矢吹町との交流試合を十月に実施を予定しています。連盟はバスケットボールの技術向上に審判の役割が欠かせないことから、公認審判員の養成を目的に、審判講習会を適時開催して審判技術の充実も並行して進めていこうと思っっています。

踊りで健康と仲間づくり

三鷹市民踊連盟

民踊連盟は昭和三十六年発足、同年体協に加盟、今年四十二年目にして都体協から優良団体として表彰を受けました。家庭婦人の健康と親睦を目的として始めたものですが現在では市のイベント、商工まつり、交通安全の集いに踊り

で参加する等、年々行事がふえてきております。五月に行う恒例の大会には芸文星のホールに於いて数十曲の踊りを披露、日頃の成果を公開し、七月には各地区の盆踊りに先がけて初心者講習で新曲を指導、お互いの地区にお手伝い

に参ります。更には二年前から月一回老人ホームを慰問、園の盆踊りに大勢で参加、感謝されております。お稽古は連雀コミセンにビクターから講師を招いて年間数曲を

代表者がマスター、各サークルに

分かれて稽古しています。最近では古来の民謡より歌謡舞踊が多くなってきました。楽しく踊り少しは人の為になり健康で充実した毎日を過ごせることは何より幸せと思ひます。どなたでもすぐ踊れますのでご参加をお勧めします。ご希望の方はお電話下さい。四三二五九八五 三上

クレー射撃競技について

三鷹市クレー射撃協会

「みたか体協だより」復刊誠におめでとうございます。私共クレー射撃協会も市体協に加盟以来、市体協の役員及び会員の皆様の御指導のもと今日に至っている事を心から感謝申し上げます。さて、クレー射撃については見た事もないと言う方も多いと思ひますので、この機会に御説明いたします。まずクレー標的とは、石灰と「ピッチ」で作った直径十一cm高さ二・五cm重さ一〇・五gの的

です。これを秒速約三〇mの速さで空中に放出します。飛ぶ距離は約七二mから七五mです。このクレーを狙って秒速約三〇〇mの弾速を持つ散弾銃で撃つスポーツです。瞬間の判断と動作を最高度に

発揮する非常にスリルに富んだスポーツです。現在「トラップ」「スキート」「ダブルトラップ」の三種

目があり、国体種目としては「トラップ」「スキート」の二種目が認

められています。又過去には、三鷹クレー射撃協会からも優秀な選手が数多く輩出されております。例をあげますと東京都代表で国体出場者が二名、日本の代表として「アジア」大会に参加し優勝者も出してあります。現在でも日本クレー射撃協会が公認する公式大会に三鷹より毎月参加し活躍されている当協会の土屋理事を始め男子で五名、女子で二名、計七名の選手が活躍されております。特に「ダブルトラップ」女子の部では、当協会の理事役員の指導により、一人の女子選手が立派に育ち、現在ドイツの「ワールドカップ」大会とフィンランドの「世界選手権」の二大会に参加してあります。私共の協会はルールの他に銃

刀法取法と言う二つの法律のもと、管理指導されておりますが、高齢になっても楽しめるスポーツですので、市民の皆様への御入会をお待ちすると共に三鷹市体協のますますの発展をお祈り申し上げます。

愛すスケート

三鷹市スケート連盟

元ひばり園園長の沢山駒次郎氏の呼びかけで連盟が結成され、体育協会への加盟は昭和四十年十月。

冬季の、氷上という自然に親しみながらの健全スポーツとして、現在も読んでいる「親子スケート

教室」などを実施。昭和年代にはバス二台を連ねての教室で、車中のレクリエーションを楽しみながら、サマーランドや富士急ハイランドなどで市民の方々にスケートを楽しんでいただきました。軽井沢や榛名湖、都内の人工リクを使つての連盟研修会も年間二回程開き、指導員としての研鑽をしてきましたが、地球温暖化のために天然氷の湖沼が少なくなり、またスケート場の閉鎖などで残念ながら活動の場が狭まっているのが現状です。

平成七年三鷹市川上村での教室で、施設の近くにある高遠谷湖の滑走となりました。川上村での宿泊、親子スケート教室は五年実施しましたが、中止となりました。二月の土曜日に行っている二日間の親子教室では、市民の参加者を増やすべく、指導法の検討や広報活動の改善を考えてゆきたいと思ひます。

希望あふれる

三鷹市のサッカーを

三鷹市サッカー協会 日韓共催W杯が日本で開催された。日本代表チームの大健闘があり、選手と一体になり、多くの国民が感動をした。スポーツ(W杯)が持つ偉大さである。

三鷹市サッカー協会も近年に創

立三十五周年を迎える。ローカルな仲間内の仲良し団体から、二十一世紀に向けて三鷹のサッカーの発展をどの様に導いていくか、現在その長期的展望と、それに向かっての着実な計画の推進を討議、検討をしている。「青少年健全育成から生涯スポーツとしての組織化」。少年少女の少子化、学校週五日制及び指導者の育成問題。ほとんどのチームが父兄上がりのコーチで、少年の夢を育むのではなく、目先の勝敗にこだわり少年の可能性の芽をつみとってしまうコーチが多い。

又精神的にも一番大事な成長期のジュニア、ユース世代を指導できるコーチが絶対的に不足している。少年からユースまで、一貫指導が出来る指導者の育成こそ、二十一世紀の三鷹サッカーには必要な事である。一般の部は近隣地域にはない、四十一チームが協会加盟チームとし登録をしている。三鷹市のサッカーを盛んにし、レベルアップを考える時、プレーをする場が必要である。近年野球よりも人口増のわりに競技場は少ない。今後は自治体に働きかけ、企業や学校の施設開放に力を入れること勿論、地域のスポーツセンター増設をお願いしたい。又本年度五十歳以上の参加を得た、スーパーシニア大会が、四チーム参加のもと開催されている。最近では

フットサル開催の要望の声もあり、女子サッカーチームと現在検討中である。三鷹市の特色を生かしたサッカーを根付かせるべく、三鷹市サッカー協会は、サッカーを通じて多くの人に、心と体と豊かな発展と実践こそが明日の三鷹市を創り出すものと頑張っている。

拳 禪 一 如

三鷹市少林寺拳法連盟
少林寺拳法とは勝敗を目的とせず人間の心身の改造を図る為の手段であり、健康増進・精神修養・護身練胆、を兼ね備えた法である。

そして拳は体を、禪は心を表し心身共に上達を図る修行法であり、突き、蹴り、受け等の剛法と抜き、守り、逆を捕るといふ剛柔一体の理想的な技法です。

そしてその修行を週に二日、(水)と(土)に三鷹武道館と第二体育館、牟礼C・C等で夕方六時より行っています。

その参加内容も様々で、年少部から一般社会人まで老若男女を問わず同じ練習を通じて頑張っています。

また、活動内容として「五月の都民大会・七月の東京都大会・十月の市民体育祭への参加、実施により研鑽、向上に努めています。その成果は入賞や全国大会への出場により結果を出す。これに至

り、日々の努力が表れたものと思われまます。

また、昇級・昇段により自身に自信が生まれ、後輩への指導等より高い向上へとつながっています。

時にレクリエーション、他の道院との合同練習、部内の懇親会・忘年会等と日頃の会社、仕事とは離れたつき合いの中で交流を深めていく利点(?)もあります。

このような運営・活動を通じて日々精進を図っています。

連 盟 紹 介

三鷹市テニス協会
昭和三十四年頃は公営コートが少なく、一部の事業所にあつたコートで、市内在住の数社が親善試合を重ねていました。

昭和三十八年に「会員相互の親睦と技術の向上」を目的に、五社で三鷹市硬式庭球連盟が結成され、男子の団体戦・個人戦単複、女子単の大会が始まりました。

昭和四十四年に都民大会に初出場し、その後毎年参加しています。

昭和四十五年には三鷹市体育協会に加盟と同時に、市営コートが六面新設になり、初めて連盟が市営コートを使えるようになり、単複大会に市民参加が始まりました。昭和五十一年から市民対象のテニス教室を毎年開催し、定着化し

てきたため指導部を発足させ、市民へのテニスの普及に努めてきました。

昭和六十年頃より連盟の組織が大きくなり、団体戦・シングルス戦・ダブルス戦・指導部等の事業部制を採用して運営にあたっています。

平成十二年より、名称を「三鷹市硬式庭球連盟」から「三鷹市テニス協会」に変更して、新たな発展を目指しています。

参加もソフトに

三鷹市ソフトボール連盟
三鷹市ソフトボール連盟は誕生してから今年で三十年になりました。昭和四十六年五月に準備会を発足させ翌年の四月、三鷹市体育協会に二十二番目の団体として、正式加盟が許されて誕生しました。

同年八月に連盟結成記念大会を、牟礼の青少年広場と三鷹市立第一中学校校庭をお借りして開催しました。参加は小学生の部十二、中学生の部五、一般の部六チームでした。九月には第二十二回三鷹市市民体育祭ソフトボール大会を主管させて頂き一般の部十チームの参加を得る事が出来ました。

昭和五十一年には登録チーム数も二十三と増えて来ました。七月、待望の大沢総合グラウンドがオープンされ、女子チームに

よる模範試合を行いこれを期に、市内全域より女子ソフトボールの希望者を募り、講習、教室、練習会を開催し女子チームの誕生も見る事が出来ました。

姉妹都市である矢吹町とのスポーツ交流もこの年に行われ力の差を知らされたものでした。その後も矢吹町との交流は往復八回を数えています。

現在の連盟登録チームは一般男子二十四・女子三・壮年九となっています。登録料は年間、男子六千円、女子・壮年は四千円。大会参加料は一律六千円です。(市民体育祭は無料)春・秋の二回、連盟の大会と市民大会の計、三大会を毎年開催しています。生涯スポーツをと考えるの、貴方のご参加をお待ちします。

ボウリングは

生涯スポーツに最適です

三鷹市ボウリング連盟

三鷹市ボウリング連盟は、昭和五十四年十一月に体育協会に加盟し今日に至っております。

残念ながら市内にあつたボウリング場も、次々と廃業になったため、昨年から調布スポーツセンターと吉祥寺第一ホテルの東京ボウルを競技会場としてゲームを続けております。

三鷹にボウリング場は無くなりましたが、熟年時代を迎え、生涯

スポーツとしてのボウリング熱は静かなブームにあり愛好者も増えつつあります。

連盟としては、毎年の行事として初心者教室や、秋の市民スポーツ体育祭への参加推進を市報を通じてお知らせしています。

ボウリングを始めた方、毎曜日仲間とのプレーを楽しんでみたい方等：ボウリングに関することでの問い合わせをFAXで承っております。

ボウリング連盟はボウリングを愛する人達の輪を広げ、そのスポーツ性を高めると共に、ボウリングの発展と普及を促進し市民相互の健康づくりと親睦を図り、その振興に寄与することを目的としております。

FAX(四六) 一四三二

和をもつて

三鷹市なぎなた連盟

「なぎなた」の出現は、一〇八三年〜一〇八七年の「奥州後三年紀」合戦図の中にしるされており、江戸時代に入って、刀身が短くなり女子の護身用となって、薙ぎ払う意味から「薙刀」の文字が使われ明治以降は、女子の武道としてその目的も「礼に始まり、礼に終る」言葉を大切に教えられて来ました。戦後武道禁止令が出、武道復活後は「なぎなた」と字は変わり、昭和二十八年に第一

回武道大会が開催、昭和三十年「全日本なぎなた連盟」が発足、「第一回全日本選手権大会」より

続けて各大学、高校、中学、少年錬成大会、国体、ねりんピック、第二回全国エンジョイ大会に試合競技で初出場しました。

三鷹市なぎなた連盟は、初二段の部にて、平賀静が優勝、四、五段の部に荒関友子が優勝と発表された時は、会員一同喜びの声でした。他の大会にても平成元年より

平賀静さんは、個人試合で六回優勝し、カップ、トロフィを部屋に飾って孫に自慢かな。平成七年七月三十日、第一回世界なぎなた選手権大会が開かれました。一回目は、日本が各競技で優勝。四年後の第二回フランス開催も、日本が優勝しましたが、第三回の開催国はアメリカです。国際武道大学では、各国の武道に関心ある人達が熱心に練習に励んでいます。演技競技、試合競技がある中で、圧倒的に試合競技は男子選手が多く出場して来ました。今後は学校体育にぜひ武道の時間を取り入れて、心技体の大切さを指導に組み入れていただきたいと思います。

見学大歓迎

三鷹市アーチェリー協会

三鷹市アーチェリー協会は、現在、東京都アーチェリー協会の理事をしている田居伸夫氏を中心に

クラブ活動を開始し、合わせて講習会等を開きクラブ員を増やし、一九八三年、三鷹市の体育協会の会員となり現在に至っています。

現在の会員数は年度によって変動しますが、約六〇〇人です。年齢は、下が小学生から上は六十代の熟年まで、幅広い会員が活動しています。

アーチェリー「洋弓」はオリンピックの種目にもなっている競技ですが、年齢や体力に関係無く楽しめる生涯スポーツとして広く認知されています。

主な活動日は、水曜の夜、土曜の午前、日曜の午前、市役所奥の第二体育館の地下にある「和洋弓場」です。

スポーツ振興課の御尽力により、月一回、国際キリスト教大学のアーチェリー場でも練習出来ます。その甲斐あつてか、今年「平成十四年」の都民大会では、男女共準決勝に敗れたものの、四位に入賞致しました。

アーチェリーは初心者でも運が良ければ、オリンピック選手と肩を並べて競技出来る数少ないユニークなスポーツです。

アーチェリーに興味の有る方は、第二、四土曜日の午後一般開放(無料、指導員付)が有ります。また、経験に拘わらず、水曜の夜と土曜の午前に来て頂ければ体験出来ます。見学だけでも大歓迎です。

迎です。

合気という心

三鷹市合気道連盟

合気道は、開祖・植芝盛平翁が創立された戦後の武道です。競技武道とは違い、勝ち負けであらわず、無理をせず、自然に合理的な動きができるように技を何度も繰り返して稽古をします。

開祖は(自己)の人格の完成を願うての求道であり、その体現に於いての道が合気であり、宇宙偏在の根源の「気」と人間の「我」の呼吸を通じての気が一体化するところにその究極を置く」といっておられます。

今や合気道は、世界数十カ国で百二十万人の方が稽古をされています。

私ども「三鷹市合気道連盟」は早いもので来年、二十周年を迎えます。中核となる「武友会渡部道場」が武蔵野市体育館、「麻生道場」が中原、「春清寺道場」が新川とそれぞれが地域に密着した活動を続けてまいりました。簡単に二十年といっても平坦な道程ではありませんでした。会員の確保はもちろんの事、いかに効率よく指導するかという指導体制の確立も重要な問題でした。しかし、それも今では他道場との定期的な合同稽古、合気会本部道場から師範をお招きしての講習会、本部主催の

様々な講習会への参加で、しっかりと稽古ができるようなシステムが出来上がりました。

今年から公立学校が週休二日制となり、学校に変わって合気道を通じ子供達の生活指導、心の教育をする機会もますます増えてまいりました。更には、長い会社勤めを終え引退された方々の健康維持増進のためのお手伝いもできればと思っております。

生涯スポーツとしての

ダンスの普及を目指して

三鷹市ダンススポーツ連盟

三鷹市ダンススポーツ連盟は、昭和六十三年一月に市内で活動する十一団体が結集して設立されました。発足当初から東京都ダンススポーツ連盟、三鷹市体育協会に加盟し、春の都民ダンススポーツ大会と秋の都民生涯スポーツ大会への参加、春の周年パーティの開催、秋の三鷹市市民体育祭ダンススポーツ大会の開催等、各種行事への積極的な対応を心がけております。

今年度から名称も三鷹市ダンススポーツ連盟(旧名称：三鷹市アマチュアダンス協会)と改名されたことを受けて、社交ダンスが老若男女を問わず、誰もが手軽に楽しめる身近なスポーツとして、そして生涯スポーツとして地域に根ざした活動を展開してい

たいと考えております。

ダンスは、近々国体競技にも取り入れられるでしょうし、オリンピック種目にも入ってくることで期待されております。そこで、より多くの市民にダンスの楽しさ素晴らしさを知っていただき愛好していただけるよう初心者講習会等を企画・開催して普及活動にも努めたいと考えております。

二十周年を迎えて

三鷹市ゲートボール協会
早いもので、当協会も創立以来二十年がたちました。思えば、最初のころはスティック、ボールその他必要な用具はすべて市から貸してくれた物を使って始めたものでした。

最初はお年寄りの遊びという程度の認識しかありませんでしたが、先輩の方々の非常な努力の甲斐があつて、今では技術も格段に進歩し、組織も確立して上部団体の「東京ゲートボール連合」は特定非営利活動法人(NPO)の資格を取得するまでになりました。当協会でも今年は二十周年記念のゲートボール大会や祝賀会を開催して盛大に祝いました。

現在三鷹の会員は約百六十人ですが、三鷹市内には常設のゲートボール場が三方所あり、その他にも数カ所の公園等の空き地を利用して、約二十のクラブが毎日練習

に励んでいます。

ゲートボールは団体競技ですが、球を打つ技術だけではなく、作戦が勝敗に大きく影響する非常に奥が深く興味深いゲームです。お年寄りには外の空気を吸いながら体調に合わせてできる適当なスポーツですが、最近では全国的に若年層にも広がりつつあります。三鷹でもぜひ若い人たちの参加をお願いしたいと思っております。

トライアスロン連合の紹介

三鷹市トライアスロン連合

前回のシドニーオリンピックより正式競技になったトライアスロンは、基本的な運動であるスイム、バイク、ランの三種目を連続して行うスポーツです。過酷な鉄人レースを想像される方も多いかと思ひますが、距離を短くしたり工夫をして初心者でも参加しやすい大会もたくさんあります。自分の体力や体調に合わせてレース展開を組み立ててゆく醍醐味もあるスポーツです。

このスポーツを通して誰もが願う心身共に健康になることを実践してゆくのが私共トライアスロン連合の目標です。

特に、近年の子ども達の体力低下や学校制度の変革に伴い、地域のスポーツ団体の振興が求められてきています。私共も、将来を見据えた小中学生の育成が、現役の

トライアスリート達の活性化にもつながる事と思ひ、子ども達の参加しやすいイベントや練習会を提供してまいります。

今後各市区連合との連携を取りながら各地域の大会サポートをしたり競技にも参加してゆく予定です。又、毎年三鷹市民体育祭の一環としてアクアスロン大会を開催し、毎月室内プールを借りて初心者へのスイム指導を含んだ練習会も行っております。

人生の基本、

マナーをモットーに

三鷹市ゴルフ連盟

三鷹市ゴルフ連盟は平成十四年二月二十二日に設立総会を開き、経過報告、会則、事業計画、収支予算——を全員賛成で可決し、併せて、高橋一義会長以下一六人の役員をはじめ、名誉会長に安田三鷹市長、顧問に大関前助役、三浦前都議、吉野都議をそれぞれ選出し発足しました。設立時現在の会員数は二四四人(六・一現在三一人)、総会・懇親会には約一〇〇人の会員が出席し、安田市長、渡辺体協副会長などから祝辞を頂戴しました。

連盟の設立にあたっては、設立準備委員会を十回ほど開催しましたが、昨年十二月に体協への仮加盟が認められてからは、準備作業に弾みがつき、感謝している次第

です。

今年度は主に、市民体育祭の一環として市民ゴルフ大会の開催、都民体育大会への選手派遣、年二回の会員ゴルフ大会などの事業に取り組みます。第一回会員大会は四月十六日富士レイクサイドC・Cで一四六人が参加しました。今後、体協傘下の連盟として、会則にも謳っているとおり、ゴルフを通じて、ふれあいを深め、人生の基本であるマナーの向上に努め、スポーツを通して、三鷹市の明るいまちづくりに寄与します。

子供達と一緒に歩む、

私たちの団活動

三鷹市スポーツ少年団本部

私が所属する向原スポーツ少年団は、昭和四十六年六月一日に、梅垣條治氏(現三鷹市SP少年団本部長・団顧問)が中心となり設立されました。種目はサッカーです。設立当時から、「一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを」「スポーツをとおして、青少年の体と心を育てる組織を地域社会の中に！」という、スポーツ少年団の理念に基づき活動を続け現在に至っています。現在の団員は、小学二年生から六年生までの一五名

で、毎週日曜日の午前中に地域の小学校校庭でスポーツ活動を行っています。勝つためだけでなく、仲間一協力し、スポーツを楽しむ

事を目的に指導しています。スポーツ活動以外にも、進級・進学を祝う会、餅つき会などを行って

います。これらの行事活動には母集団の方々に協力支援して頂いています。また、市内の他のスポーツ少年団と合同で夏期合宿・体力テスト会などを行い、サッカー以外のスポーツを見たり・体験したり・他団体の仲間と会話することで幅広く見聞し、将来社会の一員となる基礎を築くための活動も行っています。ここ数年、少子化などの影響からか団員数の減少という問題もありますが、未永く団活動を維持していきたいと思ひます。

体育協会の更なる発展を

前スポーツ振興課長 浜 三昭

スポーツ振興課長在任中は、体育協会の皆様にいろいろとお世話になりました。特に、秋の市民体育祭や、冬の駅伝大会などの行事の際には、実行委員の中心となって活躍していただきありがとうございました。さて、今年開催された国際的なイベントであるサッカーのワールドカップは、開催国の日本にとつてたいへん大きなインパクトがありました。

国の威信をかけてチャンピオンシップにいどむ選手たちの姿、応援するサポーターの熱気、異文化交流のすばらしさ等々、私たちに

驚きと感動を与えてくれました。「スポーツ」が人間にとって大切なものであることを、あらためて痛感させられました。

スポーツを愛し、スポーツに親しんでいる皆さんが、種目や年齢の枠を越えてお互いに協力し、スポーツの振興をめざすことが体育協会の目的のひとつであると思います。

二十一世紀…新しい時代のながれを敏感に感じながら、新しいことに挑戦していくことも必要な時代です。体育協会の更なる発展を期待します。

スポーツ環境づくり

スポーツ振興課長 沼田 登

日頃から、体育協会の皆様には市民スポーツの振興にご指導、ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

世界を沸かせた2002サッカーワールドカップはブラジルが優勝し、その幕を閉じました。日本の選手をはじめ、世界の一流選手の華麗なプレーに酔いしれたことと思いますが、スポーツの魅力は「するスポーツ・見るスポーツ」いずれの場合でも充実した時間を体感し、人生を豊かにするのではないのでしょうか。サッカー同様に世界的なイベントはオリンピックもありません。昭和三十九年の東京オリンピックでは、甲州街道をひ

た走るマラソンランナーへ選手や円谷選手の情景が思い浮かびます。スポーツは国を越え、言語や文化を越えて人々に感動と夢を与えてくれます。それは世界的イベントばかりではありません。地域で開かれる市民体育祭や市民駅伝大会などは地域のスポーツイベントとして、市民の皆様が親しまれ、時に歓喜し、涙し、するスポーツ・見るスポーツ「さまざまなかかわりの中で感動と夢を与えてくれます。」

これからも市民の皆様が末永くスポーツを愛好していただけるよう、「スポーツを生涯の友に」を目標に、いつでも、どこでもスポーツができる環境づくりをめざして頑張つてまいります。ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

あとがき

皆様のご協力により第二号を発行することができました。今回の原稿は、皆様から八頁分が集まりましたので、大変うれしく有難く思いましたが、予算を大幅に超過してしまいました。うれしい悲鳴です。スポーツ振興の一助に願いを込めてご理解をいただきましたと思います。

広報部会は理事八人でいつも手探りの状態ですが、今後は会員のなかからお知恵を借りたいとも考えています。ご意見をどうぞ。

助成金配分を判り易く

かねてから各連盟に配分される市内競技費と市民体育祭の助成金などのような方法で配分されているのか十三年度の評議員会でも議論されました。

そこで体育協会では総務部会に検討をもらいその結果平成十四年四月十八日(木)の臨時理事会において次のとおり決定されました。

1 基礎割額と会員数割額を設けて客観的に計算できるようにする。
2 過去の配分基準、貢献度等につ

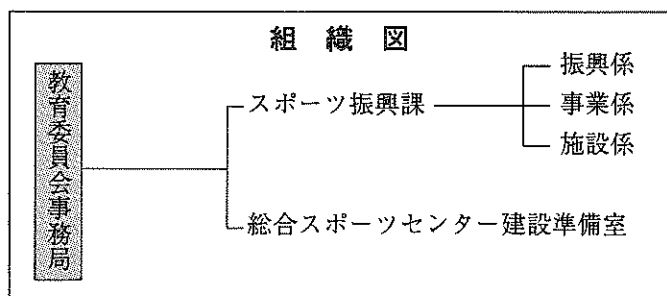
いては図りようがないので、別途特殊事情(市内に施設がない。資格者を別途招く等)として検討する。

3 原資については、年度内予算の範囲で配分する。

4 新規登録団体については、正規加入後二年目より適用する。但し、加入年度は基礎割額のみとする。

5 実施は、平成十五年四月一日からとする。但し、会員数は当該年度の六月三十日現在を原則とする。

スポーツ振興課職員体制 (平成14年4月1日付)



- ◎ 教育委員会事務局次長 兼総合スポーツセンター建設準備室長事務取扱 秋元 政三 (旧健康福祉部長)
- ◎ 教育委員会事務局次長 前田真紀子
- ◎ スポーツ振興課長総合スポーツセンター建設準備室主幹兼職 沼田 登 (旧会計課長)
- 課長補佐振興係長事務取扱 津田 誠
主査(振興係兼務) 川田 晃義
主事 川村 恵美
主事 今野 聡
- 課長補佐事業係長事務取扱 西原 勇治 (旧管財課)
主任 大高あけみ
主任 佐藤 達也
主事 村木 武夫 (H14.4.1採用)
- 施設係長 小樽 正幸
主査 楠 修次
主事 小嶋麻友美

計算例

市内競技

930,000円(原資) - (22,000円×31団体) = 248,000円
248,000円 ÷ 6,766人(会員) = 36.70円(単価)
(100円未満四捨五入)

市体育祭

2,125,000円(原資) - (44,000円×29団体) = 849,000円
849,000 ÷ 6,566人(会員) = 129.30円(単価)

連絡先 三鷹市体育協会事務局 0422-43-2500